



# 黒髪っ子だより

佐世保市立黒髪小学校

NO.6 R7.8.9

明るく元気な子ども 楽しく学ぶ子ども 仲良く助け合う子ども 文責：校長 大浦美輪子

## 8月9日 県民祈りの日に思うこと

8月9日は長崎原爆の日です。昭和20年8月9日、原子爆弾が長崎上空に投下され、一瞬にして数万の人々の命が奪われました。美しい街並みも、緑の木々も形を残すことなく破壊され、黒焦げになって亡くなった人の山は、まるで地獄のような光景だったといわれています。

戦争・・・それは、私たち人間の仕業です。人間の心が起こしてしまったことです。

「意見や考えがあわないこと」「思い通りにならないこと」は、誰と誰の間にでもあります。この時に、相手を理解せず、力で抑え込もうとしたり、自分の言い分だけを通したりすると、「憎しみ」が双方につきもり、解決するどころか大きな「争い」へとつながってしまいます。国と国の争いである「戦争」も、こうした「無理解」や「憎しみ」が生む小さな「争い」がきっかけだったのかも知れません。

学校生活の中でも、子どもたちには様々なトラブルが生じます。トラブルが起こった時に解決するために大切なのは、相手の立場に立って考えてみることにあります。話し合っ解決しようとする、相手の心をつかろうとすることです。ですから、私たち教師は、子どもと一緒に話をしながら、自分の気持ちや行動を思い返させ、冷静に自分の心と対峙し、「自分で考え」、「自分の気持ちを言葉で伝え」、「相手の気持ちを想像し」、「対話によって解決」できるように支援しています。トラブルが起きた原因を安易に誰かのせいにするのではなく、自分も周りの人も幸せにしていく方法を見つけていく力を身に付けてほしいと願って・・・

8月6日に広島市の平和公園で行われた平和記念式典での二人の小学生の「平和への誓い」がとても心に残りました。「原爆が投下されたあの日のことを思い浮かべたことがありますか？」で始まった広島の「平和への誓い」。この「平和への誓い」の中で、「周りの人のためにほんの少し行動することが、いずれは世界の平和につながる」「大人だけでなく、子どもである自分たちにも、平和のために行動することができる」と力強く訴えていました。そして、最後に「あの日の出来事（戦争）を二度と繰り返さないために、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡いで平和をつくり上げたい」と結んでいます。

1945年8月9日から80年がたった今、悲惨で地獄のような光景を実際に体験し証言できる方々は本当にわずかとなり、継承が難しくなっています。そして、今、この時にも世界では、戦争・紛争等が起きています。私たち大人が、「戦争」は過去のことだ、遠い外国のことだと思ってしまうことはできないのです。同じ過ち、同じような惨禍を繰り返さないために何が起きたのかという事実を子どもたちに伝え続けていくことが本当に今、とても大切だと思います。

本校でも、「平和」の尊さについて考える機会として、本日、平和集会を行いました。ご家庭でも、人としての心の豊かさや人としてありたい姿について、そして、「平和」のために自分たちができることについて、子どもたちと一緒に考えていただければ幸いです。

原爆の学習をして（原爆パネル展を見学しての2年生の感想です。原文のまま）

私は、原子爆弾はあぶないところじゃないと思いました。写真を見ると、人が苦しんでいる写真や焼け死んでいる人の写真がたくさんあって、人々を苦しませたらだめだと思いました。戦争は人々が悲しんだり苦しんだりするからとても悲しいです。これから世界を平和にするようにがんばります。



平和への願いを込めて  
全校で折った千羽鶴